



PRESS RELEASE

平成21年11月27日

＜革新的分子イメージング技術の創製と創薬研究（理研・岡山大コンソーシアム形成と研究推進）＞

＜概要＞ 岡山大学医歯薬学総合研究科（薬）医薬品機能分析学分野の榎本秀一教授らの研究グループは、独立行政法人理化学研究所（以下 理研）神戸研究所分子イメージング科学研究センターとともに分子イメージングプローブ創薬と新規分子イメージング装置開発をおこなってきました。このたび、この先駆的分子イメージング技術を創薬に積極的に活用するため、同研究科（薬）の宮地弘幸教授および加来田博貴准教授らの優れた創薬技術と融合連携し、難治性炎症性腸疾患などの治療薬開発と薬効評価法の確立、炎症やがんの特異的早期診断薬開発のプロジェクトをスタートしました。将来的には、この研究プロジェクトで作り出した新薬や評価測定技術を核としたベンチャー企業化を目指します。この研究のため、平成21年10月、岡山大学教職員や学生、理研研究者との研究交流を高めていく場として、理研神戸研究所分子イメージング科学研究センター（渡辺恭良センター長）岡山研究室を岡山大インキュベータ施設にオープンしました。この研究室が岡山大・理研の融合連携研究の発信基地となります。

＜本文＞岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（薬）榎本秀一教授らの研究グループは、理研分子イメージング科学研究センターとともに、**世界で初めて、複数の分子をリアルタイムで同時にイメージングできる装置の開発に成功し、国内外から注目を集めています**（この研究関係で榎本教授は平成22年度日本薬学会学術振興賞受賞が11月20日に決定しました）。この先端分子イメージング技術を創薬研究に活用する研究プロジェクトが立ち上がりました。これは同研究科（薬）の宮地弘幸教授や加来田博貴准教授らの創薬研究者のシーズを分子イメージング技術で実用化、上市を加速化するものです。具体的には、**潰瘍性大腸炎やクローン病の難治性炎症性腸疾患の治療薬開発とその薬効評価法の樹立**です。これら疾患の従来の薬効評価法は、侵襲的であり、その治療効果を正確に評価することは困難でした。近年、分子イメージングの技術革新は目覚ましく、疾患の診断や治療のモニタリング等に威力を発揮するツールです。難治性炎症性腸疾患に関わるサイトカインなどをモニターするイメージングプローブ開発を促進させ、**複数分子同時イメージング技術などを駆使すれば、これら腸疾患に対する基礎医学的理解を強力に前進させ、その診断法が確立でき、従来の治療薬以上に有効性の高い医薬の創製ができる**と考えています。この研究プロジェクトは、まず炎症部位可視化のための分子イメージングプローブ創薬と薬効評価法を確立します。このプローブは、炎症性疾患メカニズムの解明だけでなく、治療効果診断薬にもなり、波及効果は大きいものです。また、この研究プロジェクトで樹立された薬物検索ツールを用いた新規治療薬候補物質探索は、国民の保健医療に大きく貢献できると確信しています。（本日 15:30より薬学部棟 307号室（この建物の西側）で詳しい説明を行います。関心のある方はご参集ください。）

＜お問い合わせ＞ 岡山大学大学院医歯薬総合研究科（薬）教授 榎本秀一

（電話）086-251-7951（FAX）086-251-7953